

三方岩岳・白谷右俣右沢

—絶妙のタイミングで本邦初滑降！—

酒井正裕 記

《概説》

白谷右俣は記録を見かけない谷であるが、条件が良ければ快適なスキー滑降が期待できる。

本山行では、右俣と左俣の間に位置する尾根を登ったが、スーパー林道のある尾根を登れば、雪の状態等が悪く滑降不能であっても、三方岩岳まで往復することにより、十分楽しいスキーが可能である。

《行動概略》

スーパー林道ゲートから、白谷中間尾根を経て三方岩岳、白谷右俣右沢滑降

スーパー林道ゲートに車を置き、スーパー林道のある尾根の登山道を登るべく白谷沿いの林道をたどったが、登山道には雪がなく藪でスキーがつかえ、登ることはできなかった。

仕方なく、目の前の堰堤を左から巻き、雪に覆われた白谷の二俣に着く。

ここから、広い谷となっている左俣を暫く歩き、中間尾根の南面の斜面を登る。この尾根は、最初はぶな林となっているが、標高1300m付近からはすっきりした雪稜となって続いている。標高1500m付近は、一部に痩せたところも出てくるが、ピッケルを使うこともなく主稜線である馬狩荘司山に達する。この尾根の登高は、雪の状態が悪ければピッケルが必要となるだろう。

当初、白谷のどの沢を滑るか決めかねていたが、取り敢えず谷の状況を確認すべく、三方岩岳に向けて稜線を縦走する。

なかなか状況はわからず、三方岩岳頂上

からみて初めてその状況が概ね判ったが、肝心の谷の下部は確認できなかった。

登りに取り付いた尾根からの状況も勘案した結果、何とか滑れそうであると判断し、三方岩岳南のコルから滑降を開始する。

滑り出しは、三方岩岳直下の岩壁を見ながら広大な斜面を滑る。途中、一部狭い斜面を滑るが、この後はまた広い斜面となる。兩岸はすっきりした岩質ではないものの、岩峰が屹立し荒々しい谷となっている。

標高1300m付近は、デブリが多く少し手間取るが、これは僅かであり、また快適な斜面が続いている。

快適な斜面は予想以上に続き、標高1000m付近まで快適に滑ることができた。やがて谷はかなり狭まり、水流が出ていたので、これを右岸から小さく巻く。

谷は、ここでまた広くなり、夏は河原と考えられる平坦で小広い斜面を滑ると、登高時に確認した堰堤に出た。

ここからは、堰堤を右岸から下り、更に滑り降りて今朝辿ってきた林道に戻った。

色々な条件に恵まれた幸運な山行であったが、たった一つ残念なことは、そのまま右岸を滑れば、ゲートの傍の橋まで更に高度差100mのスキー滑降を楽しめたことに気づくのが遅れたことだった。

==== 《 参考 》 =====

【メンバー】 三宅 雄一 酒井 正裕

【コースタイム等】

平成11年4月12(日)曇り時々晴

白山スーパー林道ゲート(6:45)稜線

(10:15)頂上(11:20)稜線(滑り出し)

(11:40/12:05)林道終点の堰堤(13:00)

白山スーパー林道ゲート(13:20)